

研究主題 「学びを工夫しながら、課題解決できる生徒の育成」 ～学びのつながり、他者とのつながりから深い学びへ～

単元を貫く問い 聞いたり読んだりした内容をもとに、日米の生活様式の違いを意識しながら、どのようなアドバイスをすればよいのかを考える。 / 単元ゴール 新しく来た ALT に対して、日本の生活で困らないようにアドバイスをしよう。

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(・)
【中学1年生 CAN-DO リスト 話すこと(発表)②】
◆日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる。
・自分の身の回りの人やもの、地域について、情報をメモにまとめて、伝える順序などを工夫しながら、事実と自分の考えを整理して発表する。

本単元の目標

学習指導要領「話すこと[発表]」ーイ
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする
「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標「話すこと[発表]」2年生②
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

学びに向かう力、人間性等
・聞いたり読んだりしたものから、何を伝えるべきか判断し、伝えるべき内容に関する様々な情報(根拠や詳しい説明など)を整理して伝えようとしている。
・目的に応じて、詳しい助言ができるように、タブレット端末や協働的な学びを効果的に活用しながら、学びを進めている。

単元終了時のめざす生徒の姿
ALT からの『日本での生活について困っていることや不安に感じていること』についての相談を聞いたり読んだりして、どのような助言が適切か自ら判断し、伝えるべき内容に関する情報を整理して伝えることができる。

思考力・判断力・表現力等
・聞いたり読んだりしたものから、相手に伝えるべき助言の内容はどのようなものか、判断し事実や自分の考えなどの情報を整理して伝える。
・説得力のある助言となるように、根拠や詳しい説明などを加えて、相手に助言をする。

知識及び技能
助動詞(have to, don't have to, must, must not, should)や動名詞などを用いた文の構造を理解する。また、それぞれの人にアドバイスするために、助動詞(have to, don't have to, must, must not, should)や動名詞などを用いて話す技能を身に付ける。

この単元からつながっている領域の付けたい力と内容
【第3学年】
◆日本のポップカルチャーについて海外の人に発信するために、事実や自分の経験、自分の考えなどについての情報を、相手に伝わりやすいように整理して、詳しく伝える活動。(話すこと[発表]イ)
◆災害時に海外の人が直面したトラブルや、本市在住の ALT が不安に思っていることなどについて、聞いたり読んだりしたものをもとに、伝えるべき内容を判断し、事実や自分の考え、詳しい説明などを整理して伝える活動。(話すこと[発表]ウ)
【高校】
◆日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。(話すこと[発表]ア)

生徒の実態と指導観

コミュニケーションに対して非常に積極的なクラスで、ペアでのやり取りに活発に取り組むことができる。第1学年では、「話すこと(発表)イ」を扱ったパフォーマンステストでは、A 評価の生徒が 4.2.8%、B 評価の生徒が 5.2.6%、C 評価の生徒が 4.5%であった。生徒の発話内容から、ある程度まとまった量で、内容に関連を持たせながら伝えることができるようになってきている反面、言語面でのミスなどが多く、また準備したことを話すことはできるが、即興性には課題が見られた。このため、本単元の構成としては、単元前半に助言を伝えるために必要な知識・技能の習得をめざし一斉指導による言語活動を中心として行い、単元後半でその知識・技能を活用しながら目的・場面・状況に応じて適切な助言を伝える言語活動を行う。聞いたり読んだりした情報を整理し、助言を行う言語活動を終末に行うので、対話的 AI を活用し様々な場面や状況を聞いたり読んだりして助言を行う活動を個別学習として行うことでその力を養いたい。

活動

日常的な場面や状況・相手に応じて、適切な助言を伝える活動。

聞いたり読んだりしたものから、場面や状況・相手についての情報を理解し、適切な助言やその根拠、詳しい説明などを伝える活動。

学んだことを活用して、ALT に対してどのような助言をするべきか自ら判断し、根拠や詳しい説明などを付けて伝える活動。

目標：ALT に対して適切なアドバイスをするための言語活動を重ねて、必要な知識・技能を身に付ける

【知識・技能の習得を主とした学習活動】
第1時
・課題設定 新しく四万十市に来たALTに、日本での生活で困らないように、適切なアドバイスをするためには？
・ALTの自己紹介や日本について知っていることなどについて聞く
・助動詞 have to, don't have to の導入
・日本の習俗やマナーについて伝える
You don't have to use chopsticks. You can use a knife and fork when you eat meals.
You have to practice to use chopsticks.
第2時
・ALTからのメッセージを聞く(日本の学校とアメリカの学校では少し違うことがあり戸惑うので、中村中学校のルールを教えてほしい)
・中村中学校のルールを伝えるために、まずアメリカの学校について知らなければならぬことを確認する
・ALTからアメリカの校則について聞く
・助動詞 must, must not の導入
・日米の違いを意識しながら、日本の校則や中村中学校での生活におけるマナー等について伝える
In America, you can use a smart phone in class, but in Japan we mustn't use it. We can bring a smart phone to school, but we have to put it in teacher's office.

【聞いたり読んだりしたことを言語活動に活かすための見方・考え方の習得を主とした学習活動】
第3時
・教科書p50の内容を読む
・留学を予定している生徒の不安を聞いて、情報を整理する
・聞き取った情報をもとに、教科書を読み適切なアドバイスを考え、伝える
・不安に思っていることの内容の違いによって、同じ資料だが伝えるアドバイスが異なることを確認する
You don't have to speak perfect English. Don't be shy, and enjoy your stay.
第4時
・教科書p51の内容を読み、アメリカの家庭の house rules を読み取る
・Junがその house rules に不満を持っていることを確認する
・別の資料(アメリカの水事情)を読み、Junを納得させるために必要な情報を読み取り、アドバイスを伝える
You must follow the house rules. Water is precious because it doesn't rain much in some parts of America. You must save water.
第5時
・LucasとYunaがホームステイ先で困っていることがあることを確認する
・教科書p52の内容を読み、2人の悩みに対して、これまでの学習をもとにアドバイスをする
You want to enjoy doing something with your host family, right? You should tell your feeling to them. You can ask them to play card games or watch TV.
第6時
・今後ホームステイを予定している友だちにアドバイスを
・教科書p54のJunの体験談を読み取り、Junになったつもりで友だちにアドバイスを

【学習した知識・技能や見方・考え方の活用を主とした学習活動】
第7、8時
・四万十市に新しく来た ALT からのビデオメッセージを聞く
・聞き取った情報から、どのようなアドバイスをすればよいのか考える
・それぞれの ALT が困っていることや質問に対して即興でアドバイスを
・伝えた内容が適切であるか確認する
第9時
・ALT が困っていることや知りたいことについて聞き、情報を整理する
・ALT が困っていることについて即興でアドバイスを伝える
You want to know about manners when you eat school lunch, right? You should say "Itadakimasu" before the meal. It means that people thank for the food. Also, you should say "Gochisosama." After the meal.
後日パフォーマンステスト
読んだ内容をもとに、アドバイスを動画を録画し、提出する

評価規準

見方・考え方を働かせる生徒の姿

【知】
助動詞(have to, don't have to, must, must not, should 等)や動名詞などを用いた文の構造を理解している。また、それぞれの人にアドバイスをするために、助動詞(have to, don't have to, must, must not, should 等)や動名詞などを用いて話す技能を身に付けている。
*パフォーマンステスト等で総括的な評価を行うため、記録に残す評価は行わない。生徒のノートや動画等をもとに、定着状況を見取る。

【思】
・聞いたり読んだりしたものから、相手に伝えるべき助言の内容はどのようなものか、判断し事実や自分の考えなどの情報を整理して伝えている。
・説得力のある助言となるように、根拠や詳しい説明などを加えて、相手に助言をしている。
【主】
・聞いたり読んだりしたものから、何を伝えるべきか判断し、伝えるべき内容に関する様々な情報(根拠や詳しい説明など)を整理して伝えようとしている。
・目的に応じて、詳しい助言ができるように、タブレット端末や協働的な学びを効果的に活用しながら、学びを進めている。

日常的な場面の中で、その場面に就いて伝えるべきルールやマナーなどについて伝えている姿。

聞いたり読んだりしたものから、話し手・聞き手にどのような助言が必要か自ら判断し、事実や考え、根拠や詳しい説明などの情報を整理して伝えている姿。

【本時の目標】相手の情報に応じて、表現を適切に使って、助言を伝えることができる。
 【本時における見方・考え方】Lucas と Yuna の悩みを和らげるために、どのような助言が必要か自ら判断し、自分の考えを伝えている。

<p>問題 2人にどんなアドバイスをしたらいいだろう？</p>	<p>Don't swim here. You have to listen to him.</p> <p>You have to eat this cake. You can eat this cake.</p>	<p>Lucasの悩み</p> <p>You He wants to enjoy doing something with his host family, right? Your ~だよ？</p> <p>↓</p> <p>You should tell your feeling to them. You can ask them to play cards together.</p>	<p>◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て (「問題」・「めあて」の工夫、まとめ、発問、活動など) 単元の構成として、単元前半では、単元の目標を達成するために必要な知識・技能(表現)の習得を目的とした言語活動を一斉での学習を中心として行い、活動に応じて個別で学習する場面を設定するようにする。後半では聞いたり読んだりしたことを根拠に、適切な助言をするという言語活動を毎時間繰り返すことで、助動詞 can, have to, must, should 等を使い分けながら、助動詞の習得を目指す。 また、生徒が個別で課題に取り組む中で対話型 AI に自分の考えを読み込ませて、それに対して自分の考えや根拠を詳しく説明するような発話があるかどうかということに対して、AI からフィードバックをもらえるようにして自分の中で AI と対話しながら自分の考えをブラッシュアップしていけるようにする。</p>
<p>めあて 2人の悩みを和らげるために、どんなことを悩んでいるのか確認してアドバイスをしよう。</p>	<p>アドバイスをするとき</p> <p>have to , must , should don't have to , must not can</p>		



<p>1. ペアでスモールトークをする。問題を設定する。 T : What would you say in this situation ? S : Don't swim here. There is a shark around here. T : How about this situation ? S : You have to listen to him. T : How about this situation ? S : You have to eat that cake. T : She has to eat it ? 食べなければならないの？ S : 食べなくてもいいかな？ T : それぞれの状況で使う助動詞は変わってきそうね。</p> <p>2. 課題について確認する。 T : This is Lucas. This is Yuna. They are Jun's classmate at summer school. They also stay at American families, but they look confused. They experienced cultural differences at their homestay. Let's give them some advices. S1 : You don't have to speak perfect English. S2 : You must follow your family rules. T : Nice try, but are they OK ?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 問 : 2人にどんなアドバイスをしたらいいだろう？ </div>	<p>3. めあてを設定する。 T : Lucas や Yuna へのアドバイスはそれでいい？ S : それぞれが困っていることがわからないとアドバイスができません。 T : そうだよ。ではどうする？ S : 困っていることを知らないといけない。 T : We don't know them, so let's read the text and find out what their troubles are. Then, let's give them some advices. Open your textbook and read the text of Lucas, first.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> めあて : 2人の悩みを和らげるために、どんなことを悩んでいるのか確認してアドバイスをしよう。 </div> <p>4. Lucas の悩みに対してアドバイスをする。 T : What is his trouble ? S : His host family doesn't watch TV. They enjoy reading books. So, he is bored at night. T : What does he want to do ? S : He wants to enjoy doing something with them. T : OK, he wants to enjoy doing something with them, right ? So, what do you advice him ? S : 遠慮せず何かしたいって伝えるべき。 / いっしょに遊ぼうって誘えばいい。 T : 何して？ S : トランプとか？ T : In English. S : Play cards. T : OK. アドバイスをする時は、どんな感じで伝えるんだっけ？</p>	<p>S : You have to play cards with your host family. T : ちょっと強くない？トランプをしなければならないの？ S : トランプができるのでは？と提案する。なので can ! You can ask them to play cards together. T : ちょっとまとめてアドバイスをしてみて。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 生徒の発話例 S : You want to enjoy doing something with your host family, right ? You should tell your feeling to them. You can ask them to play cards together. </div> <p>5. Yuna の悩みに対してアドバイスをする。 教科書から Yuna の悩みについて読み取り、Lucas へのアドバイスを参考に即興でやってみる。 まずは全体共有はせず、個別に課題に取り組む。 T : What do you advice her ? S : You can't eat the dish all, right ? You should tell him that you can't finish it all. You don't have to eat it all. T : Yuna says, "What can I say when her host father giving her food? " S : Your dish is delicious, but I can't it all. T : おいしいとほめるのがいいね。でも食べられないということも伝えないといけな いね。他には？ S : You are good at cooking. I always enjoy your dish, but I'm full. No, thank you. T : アドバイスをする時確認してから、伝えよう。</p>	<p>生徒の発話例 S : You can't eat the dish all, right ? You should tell your feeling to your host father. You can say "your dish is delicious, but I'm full. No, thank you."</p> <p>6. 振り返りをする。 発話したことをロイロノートにまとめる</p>
<p><指導上の留意点> ・場面に応じて、表現を使い分けの必要性に気づかせる。</p>	<p><指導上の留意点> ・読み取った情報に対して、相手に伝えるべき助言の内容の適切さを確認する。また、助言の際に使用する助動詞の違いについても適宜指導していく。</p> <p>【主】読み取った情報から、相手に何を伝えるべきか判断し、伝えるべき内容に関する様々な情報を整理して伝えようとしている。</p>		<p><指導上の留意点> ・Yuna については、個に任せ、課題を達成できているのかを見取る。</p> <p>【思】読み取った情報から、相手に伝えるべき助言の内容はどのようなものか判断し、事実や自分の考えなどを、情報を整理して伝えている。</p>

評価規準

